

スマート農業勉強会 ～目指せカッコいい農業～

桑員4Hクラブは、10月20日（金）にスマート農業勉強会を株式会社 東海近畿クボタ桑名営業所にて開催しました。

この勉強会は、「カッコいい農業を目指しスマート農業」について興味を持っているクラブ員の想いに、「若手農業者へ農業機械とITを融合させた製品を紹介したい」と考えている株式会社東海近畿クボタ担当者が答えた形で行われました。

勉強会では、最新農機のGPSガイダンス(※1)付き田植え機、GPSガイダンス付き乗用中間管理作業機、産業用マルチローター(※2)について紹介されました。特にGPSガイダンス付き乗用中間管理作業機については、今春に発売されたばかりの新商品という事もあり、作業ガイドの仕組みについて、多くのクラブ員が関心を寄せていました。また、産業用マルチローターは、関連する規制や法令、作業能力、操作の認定費用などについても丁寧に説明があり、こちらも多くのクラブ員の興味を集めていました。

また、パソコンやスマートフォンを利用し、圃場・作物・作業情報等を一元管理できる営農支援システム「KSAS」の紹介もあり、GAPの認証取得における活用方法などについても説明されました。「KSAS」を利用しているクラブ員からは、表示方法や機能についての改善提案があるなど、活発に意見交換していました。

出席した参加者の多くが、親元就農や雇用就農の為、将来のカッコいい農業経営をイメージする良い機会になったようでした。

※1 農機の現在位置をGPSにより測位し、作業に応じて適切な進行経路を誘導することで、効率作業をサポートする。

※2 農薬散布用ドローン



研修会の様子1



研修会の様子2

いなべ地域で「麦栽培研修会」と「農業機械コンクール」が開催されました。

10月14日（日）、丹生川中研修センターなどを会場に「麦栽培研修会」及び「農業機械コンクール」が開催され、いなべ地域の農業者など約100名の参加がありました。この研修会の主催は、「いなべ地域農業振興協議会」で、いなべ市、東員町、JAみえきたいなべ総合センター、三重県農業共済組合桑員支所等、いなべ地域に関する関係機関で構成されています。

午前中に行われた「麦栽培研修会」は、室内研修会と農作業安全講習会の2部構成で行われました。室内研修会では、東海農政局担当者から助成金等に関する制度についての説明、JAから麦品種の特徴、資材や栽培暦に関する説明、全農や肥料メーカーから新たに導入する肥料や農薬についての説明が行われました。また、普及センターからは、前作で大雪による雪どけ水が滞留し、湿害が広く見られたことから、湿害・排水対策技術に重点を絞り、情報提供を行いました。

その後、ほ場で農作業安全講習会を行いました。農作業事故は、県内でも毎年発生しており、今夏には、いなべ市内で農作業死亡事故が発生しています。このような状況を踏まえ、例年行われている「麦栽培研修会」の中で、今回初めて、農作業安全講習会が開催されることとなりました。講習会では、JA農業機械担当者から農作業安全に関するパンフレットの配布や、実演を交えて、事故防止のための服装、トラクタ等の農業機械の操作における安全上の注意点等について説明が行われました。

また、午後からは、今回で6回目となる「農業機械コンクール」が開催され、幅広い年代から8名の参加がありました。参加者は、トラクタの平面ロータリー耕の競技を行い、5名の審査員（いなべ地域農業振興協議会代表、県農業研究所、農業機械メーカー2社、全農みえ）により、安全確認等の基本動作や作業精度、作業時間等について評価採点が行われ、最優秀賞（三重県知事賞）等の入賞者が選ばれました。コンクールは、3時間余りの長期戦となりましたが、三重県内はもちろん、全国的にも珍しいものであり、競技を通じて、参加者の技術や意識の向上が図られたとともに、多くの競技観戦者の農作業安全意識も向上できたと思われまます。



<麦栽培研修会：室内研修>
・湿害、排水対策がポイント



<麦栽培研修会：農作業安全講習>
・農業機械の点検について説明



<農業機械コンクール>
・審査員による審査中

6次産業化のための食品衛生7S講座が開催される。

6次産業化は、農産物の新たな価値を創出する「もうかる農業」の取組の一つですが、食品事業者としての責務が発生し、食品安全を追求するとともに食品衛生管理に関する人材育成を行う必要があります。食品衛生7S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・洗浄・殺菌）は、食品の安全を目指す基礎的な取組であるとともに、特に、整理・整頓・清掃の実践については、農産物生産現場におけるGAP導入の入り口でもあります。このような背景を踏まえ、普及センターでは、農業大学校の人材育成講座として「6次産業化のための食品衛生7S講座」を四日市鈴鹿地域農業改良普及センターとともに開催しました。

講座の1回目として、10月10日（火）に三重県桑名庁舎で、(株)QA-テクノサポート代表取締役の衣川いずみ氏と食農連携コーディネーターの井上哲志氏を講師に迎え、食品衛生7Sの基本的な取組について御講演いただきました。当日は、桑名管内及び四日市鈴鹿管内の6次産業化事業者を始め、トマトの生産農家など37名が参加しました。

講師からは、「整理」は必要なものと必要でないものを分けることであり、「整頓」は必要なものを置く場所を決めること、「清掃」は毎日少しずつ行なえば、定期的に行う清掃が楽になるなどの説明がありました。このことは、当たり前のようですが、講師がスライドで示したように、毎日、作業を続ける事業者では、なかなか徹底できていないのが現実です。しかし、講師から、食品衛生7Sの取組を進めていくうちに、時間に余裕が生まれるとともに、生産性の向上、コスト低減、クレームの減少など食品衛生7Sの効果についての説明があり、今回の講演は、6次産業化事業者はもとより、GAP導入を進めている参加者にも大いに参考になったと思われます。

また、この講座は、10月18、19、20日に桑名管内及び四日市鈴鹿管内の6次産業化事業者の施設について、講師による衛生管理の現場確認が行われ、その結果を踏まえて、講座の2回目として、11月8日（火）に桑名庁舎で、食品衛生7Sの具体的な取組事例についての講義を行います。



10月10日の講演の様子



講師による施設の現場確認の様子